

平成二十一年夏の企画展「気象」の報告

平成二十一年七月二十一日（火）～九月十八日（金）に、夏の企画展「気象」を当館一階の展示施設の一部（近代美術館側）で実施した。期間中は夏休みということもあり、会場は子供づれや気象に興味がある人などで賑わい、一、八四三人強の来場者を集めた。

当展示会では、夏休みの子供たちになじみやすいことからテーマを設定することを前提とし、最も身近な存在であり、昨今異常気象や地球温暖化などで問題になっている、「気象」をテーマに選んだ。タイトルは、副題をつけることも考えたが、シンプルに「気象」とした。

今年の展示会における特徴

今年の展示会の最大の特徴は、気象庁の後援を得られたことだ。その結果、歴史公文書探究サイト「ぶん蔵」の掲載記事、気象クイズや展示会のキャプションなどの内容の充実につながった。また、気象庁のマスコミキャラクターである「ハレルン」の使用許可を得ることができ、昨年からの展示をわかりやすくするために活用を始めた「ぶん蔵」キャラクターとのコラボレーションが実現した。また、日本最古の天気図などの展示資料も借用した。さらに、当館だけでなく、気象庁内の展示室や気象イベント会場に、当館の気象展のパネルやパンフレットを設置した。これらのことは、当展示会の来場者数に大きく影響を与えたと思われる。

地球温暖化に関しては、全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）から協力を得られた。展示会の実施と並行して掲載した「ぶん蔵」におけ

る地球温暖化の特集について、その内容を確認してもらった。また、展示会ではJCCCAのパネルも展示した。

昨年は、一つ目の展示ケースに入れる形を取った導入パネルであるが、今年は、案内掲示用のポールを利用することによって外に出すことにした。その結果、両パネルが目立つように配慮した。

展示会の構成に関してだが、いきなりストーリーに入るのではなく、気象庁からお借りした日本最古の天気図である、明治十六年三月の天気図（八月二十四日からは国立公文書館所蔵でもっとも古い明治十六年四月の天気図）を別置き、展示会のはじまりにインパクトを与える工夫をした。ストーリー展開においても昨年とは少し異なり、今年はケースごとにテーマを決めた。

資料説明には、「ぶん蔵」キャラクターと「ハレルン」をコラボレーションする形で使い、それぞれの資料を有機的に結びつけることによって、小中学生にわかりやすくする工夫を怠らなかつた。展示ケースの空間を有効に活用するために、昨年のようにA四の大きさではなく、切り抜きキャプションを使ったことも工夫した点である。

展示は原則年代順に行い、展示前半の平台では、江戸時代の気象観測資料として価値の高い『雪華図説（せつかずせつ）』や『靈憲候簿（れいけいこうぼ）』、明治時代の気象観測記録などを展示した。展示後半のガラス張りの壁面には、「歴史を彩った事件」として、計八つの自然災害・歴史的事件の時の天気図（二・二六事件、キティ台風、三八・一豪雪、東京オ

リンピックなど）を取り上げ、昭和館から借用した写真などと組み合わせ
て紹介した。

う検討してまいりたい。

「四季の特徴的な天気図」を自ら読んでもらうために、天気図の読み方
パネルを用意するなどの工夫もした。気象に関することわざパネルも展示
することによって、古くから気象が人間の営みにどれほど深くかかわって
いるかを伝える努力をした。また、展示期間が長期だったため、パネルが
中心であったことはやむをえなかったが、伊勢湾台風や皇太子明仁親王
（当時）御成婚時及び伊勢湾台風（昭和三十四年九月二十六日）の時の実
物の天気図並びに災害対策基本法などの御署名原本を随所に展示したこ
は展示会に臨場感を与えたと思う。

今年の展示会のもっとも大きな進歩は、新しい試みとして、通常の展示
解説にあたる「しおり」の他に、『自由研究のヒント集』楽しい気象のミ
ニ知識』という夏休みの宿題用のプリントを作成したことである。しお
りとともに好評を博した。

今後の課題

今回、内閣府での子供霞が関デー（八月十九日・二十日）に、気象展を
紹介するパネルを設置、リーフレットを配布した。この催しは盛況のうち
に終了し、展示の広報に役立つたと思う。これらの催しへの対応の充実方
策は今後の課題だと思う。

また、展示に関しての事前調査をさらに充実させ、来場者の対象を十分
考慮して、解説パネルをより分かりやすくするほか、来場者の動線を考え
て入口を現在とは反対にするなどの工夫が必要であることが挙げられ
よう。小中学生の来場者のために本年は夏休みの宿題用のプリントを作成
したが、来年についても、これは継続し、より分かりやすいものとするよ